

令和5年度 第2回 静岡市総合教育会議 会議録
(委員等の発言の要点を箇条書きでまとめています)

日時:令和6年3月26日(火)
午後2時00分～午後4時00分
場所:静岡市役所静岡庁舎
新館8階 市長公室

1 開会

【難波市長挨拶】

- ・前回の総合教育会議でも議題にしたとおり、今年度、来年度にかけて静岡市教育大綱を策定していく。
- ・本日の総合教育会議から、具体的な策定に入っていく。
- ・前回の総合教育会議でも説明したように、地方公共団体の長は、国の教育振興基本計画を参酌し、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を定めることとされている。
- ・そして、地方公共団体が教育振興基本計画を定めている場合には、当該計画をもって教育大綱に代えることができることから、本市では、これまで、静岡市教育振興基本計画を教育大綱と位置付けていた。
- ・国の教育振興基本計画は、「全世代」を対象とした「教育・学術・文化に関する総合的な施策の大綱」であるのに対し、本市の教育振興基本計画は、「こども」を対象とした「学校教育機関を中心とした取組の計画」となっており、対象者及び対象範囲の点で「総合的な施策の大綱」とはなっていなかった。
- ・そこで、「全世代」を対象に、「学術や文化」も含めた「総合的な施策の大綱」となりうる教育大綱を策定する必要がある。
- ・大綱として、基本理念や基本方針を定めていくこととなるが、市としてどのような基本理念や基本方針を定めるかは教育委員の皆様とお話をさせて頂いて決めていく必要がある。

【赤堀教育長挨拶】

- ・今回の総合教育会議では、前回の総合教育会議の課題認識について議論を深めたい。
- ・教育・学びとは学齢期のみならず、全ての人が全ての年代において、その人の成長に向けて必要とされるもの。行政としては各年代の取組に横串を刺すようなことが必要になってくる。
- ・さらに、今激動の時代ということで、教育に求められるものも大きく変わってきている。
- ・本日はそのような認識で協議ができればと思っている。

2 議 事

(1) 静岡市教育大綱の策定について

【説明】

(企画課長)

・資料 1-1～資料 1-7 により、「静岡市教育大綱の策定」について説明

【意見交換】

(松村委員)

- ・大綱ということなので、理念、方針、取組の流れでいい。
- ・教育というのは哲学が必要。
- ・静岡市教育大綱では、「ゆりかごから墓場まで」を教育に持ち込もうとしている。社会福祉の考え方を教育に持ち込もうとしている。それは素晴らしいこと。
- ・科学とは物事を細分化していくこと取組だが、枝葉末節をきちんとすれば元につながる。逆に言えば、元につながるような具体的なことをしっかりとやらなければならない。
- ・細分化されたものにどう取り組むか、時代の中でどう変化させるかはその都度対応すればいい。
- ・忘れてはいけないのは大元。哲学を心に持たなければならない。
- ・昭和、平成、令和と、科学の進歩により、生活が変わってきた。昔ながらの価値観も変わり、悪い影響が出ている側面もある。
- ・このような変化の中で、教育が変わらなければならないという人もいるが、枝葉末節が時代に応じて変わるのはいいが、教育の根本自体は変わらない。
- ・今回の提案は嬉しいというのが自分の感覚。

(井上委員)

- ・12 月の総合教育会議から、短期間の間に国の計画や関連計画を網羅して、基本方針を策定して頂き感謝する。
- ・大綱は全世代を対象にすることが必要だと思う。
- ・資料 1-5 で時間軸について説明しているが、今回出てきた 6 つの方針案について、どの方針がどの時期に対応しているかということを明記した方が分かりやすいと思う。
- ・年齢と成長の境界は曖昧であるものの、概ねどの方針がどの年代を指してするか明記した方が市民目線としては分かりやすい。
- ・「外の世界への挑戦」というところの表現が抽象的で市民からは分かりにくいので、どこを指しているか、補足してほしい。

(企画課長)

- ・主に乳幼児を想定した内容になっている。
- ・乳幼児は、最初は、家の中で保護者のもとで抱きしめられて安心して生活し、成長するにつれて、遊びや様々な体験を通して、内から外に興味を示していくところを挑戦という表現にしている。

(井上委員)

- ・乳幼児が自然遊びや他者とのふれあいの中で成長していくことと理解した。

(佐野委員)

- ・まずもって静岡市教育大綱を作った方に敬意を示す。
- ・横断的で横串を指すような考えは教育委員も欠けていた。見やすくありがたい。
- ・体裁の部分と内容の部分で意見。
- ・内容の面でいうと、(コミュニティスクール、部活動の地域移行など、)地域の教育力を活用した教育の推進という考えが重要になってきている。「生涯にわたる学びや活動を通じて、人生を豊かにする」に入ってくると思うが地域の教育力を加えて頂きたい。
- ・体裁の面では、重点取組方針の抽象度、具体度を統一して頂きたい。保護者など対象を具体的に明記しているところがあれば、抽象度の高い表現もあり統一感がない。
- ・基本理念については、「社会の持続的な発展に貢献できるようにするためのひとづくり」よりも、「社会の持続的な発展を支えるひとづくり」という表現の方が、自発性があり、適していると思う。

(永松委員)

- ・「社会の持続的な発展に貢献できるようにするためのひとづくり」とあるが、貢献できるようにするというのは本人の意思がない印象。「貢献するひとづくり」という表現の方が適している。
- ・言い回しの問題かもしれないが、「社会の持続的な発展」という表現も違和感がある。「サステイナブル デベロップメント」ということであれば「持続可能な社会をつくるための発展」が適していると思うが、表現を今一度検討いただきたい。
- ・基本理念の前半部分は心に響いた。理念は根本的な考え方で、世界情勢が変わっても、迷ったらそこに立ち戻るべき概念。「一人ひとりが心豊かで幸せを感じられる人生を送ることができる」というのが1番だと思うので、これは素晴らしい表現。

(難波市長)

- ・国の計画のコンセプトは、
「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」
「日本社会に根差したウェルビーイング」

- ・国の計画では、社会の持続可能な発展を支える人材育成が先にきて、個人の幸せが後にきているが、市の大綱ではその順番を逆にして、先に個人の幸せがあり、後ろに社会の持続可能な発展を支える人材育成をもってきている。

(佐野委員)

- ・市の順番の方がいいと思う。
- ・個人の幸せの上に社会の発展があるという考え。

(松村委員)

- ・個人の幸せは大事。ウェルビーイングの定義は、「幸せな状態」とよく言われるが、状態でなく、存在がなきゃいけない。幸せを感じる自分という存在が必要。
- ・個人が幸せになるということが世間の考え方。そういう意味で市の方がよい。

(難波市長)

- ・ウェルビーイングなど横文字は今極力使わないようにしている。
- ・教育とか人権問題で外国語が出てきても普通の人にはわからない。カタカナを使わないようにしている。
- ・多種多様な学びを通じて、「幸せな人生」ではなく、「幸せを感じられる人生」としている。
- ・測れるだけの幸せではなく、個人の主観的な幸せが大事という意味で書いている。
- ・そのあたりを一生懸命考えているので、綺麗な言葉でサラッと書くのではなく、言葉の意味をしっかりと皆で確認していくことが大事。

(松村委員)

- ・細かく書くと、これが足りない、あれが足りないとなってしまう。幸せをどう感じるかはひとそれぞれなので、ある程度大雑把に書いてもいいのではないかと思う。
- ・具体的な事業がたくさん並びだすと、あれが足りない、これが足りないとなりかねない。

(難波市長)

- ・教育大綱は、基本理念、基本方針、重点取組方針まで。
- ・事業が並んでいるのは、その下の個別計画。教育大綱では、あくまで大きな「方針」(重点取組方針)までを示し、具体的な取組や事業は、その下で詰めていくこととなる。

(佐野委員)

- ・重点取組方針は箇条書きで2つくらいが書いてあるが、抽象的に網羅するような文章で表現した方がいいのかなと思う。

(難波市長)

- ・基本方針の文章と、重点取組方針の項目の関係性が分からないので、補足説明をお願いしたい。

(企画課長)

- ・基本方針は6つ示しているが、表題だけでは、背景や意味するところが、人によって理解が違って来る。そこで、背景や目指す姿を整理して示している。
- ・基本方針に照らしたときに、本市で不足している取組や様々な計画で取り組んでいるものを総合化する必要があるものを項目で示している。
- ・指摘のように、抽象度の統一感などを反映しながら、大綱の完成までに、重点取組方針に肉付けして、文章化しながら、読んで分かるものにしていく必要がある。

(難波市長)

- ・基本方針の文章化されている項目数と重点取組方針の項目の数も合っていない。
- ・表現の抽象度の統一と合わせ、次までにそのあたりも整理していく必要がある。

(永松委員)

- ・本来の策定目的の中に、文化も含めたとやっているが、重点取組方針に文化や自然といった人として幸せを感じやすいところが入っていない。重点取組方針に入っているといいなと思う。

(難波市長)

- ・そのように反映していく。

3 閉会

(事務局連絡)

- ・来年度の総合教育会議の日程として、5月に第1回目、7月に第2回目、その後、パブコメを実施して、10月の第3回目で大綱を決定していくスケジュールを予定している。